

事業報告

平成29年度 「信州 体験の風をおこそう」運動推進事業

冬の高原フェスティバル

平成30年2月3日(土)～4日(日)

【対象】 幼児・小・中学生とその家族、グループ

【場所】 国立信州高原青少年自然の家

～趣旨～

冬の様々な体験活動を通して、自然体験活動への興味関心を高めるとともに、体験活動の重要性の普及・啓発を図る。

～主催～

主催：「信州 体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高原青少年自然の家

～活動日程～

日程	8:00	11:30	13:15	13:30	16:00	17:00	18:30	19:00	21:00
2/3 (土)	バス送迎	受付	はじめの会	冬の遊び体験 ・雪上遊びリンピック ・そり遊び・雪遊び ・スノーシュー &自然観察 ・歩くスキー &自然観察 ・クラフト体験	スノーキャンドル作り	夕食	スノーキャンドル ライトアップ プラネタリウム 星の観察	入浴	就寝準備
日程	9:00	12:00	13:30	14:00					
2/4 (日)	朝食	☆そりすべり大会 ☆冬の遊び体験 ・そり遊び・雪遊び ・スノーシュー &自然観察 ・歩くスキー &自然観察 ・カーリングボウリング	昼食	表彰式 おわりの会	解散	バス送迎			

～参加者～

宿泊 90 家族/294 名 ・ 3 日日帰り 10 家族/36 名 ・ 4 日日帰り 1 家族/2 名 計：332 名

(長野県、東京都、埼玉県、神奈川県、山梨県、

愛知県、大阪府)



～活動トピックス～

活動Ⅰ 冬の遊び体験・クラフト体験



雪上遊びリンピック(5種目)では、それぞれの競技で競い合ったり、クラフト体験では、親子で協力して雪だるまのマスコットを制作したり、スノーシュー体験・歩くスキー体験では、大自然の雪の中を歩きながら動物の足跡を探すなどの自然観察、そり遊び・雪遊びでは、親子で満面の笑顔にあふれていた。

活動Ⅱ スノーキャンドル作りとライトアップ

家族ごと作った雪像にキャンドルを灯した。雪像作りでは、家族でデザインを話し合い、協力しながら製作に取り組む場面が多くみられ、オリジナルの素晴らしい雪像が完成した。夜のプログラムとして実施した点灯式では、参加者のカウントダウンに合わせて街灯を一斉に消灯し、雪上に幻想的なキャンドルの灯りが浮かび上がると大きな歓声が沸き起こった。



活動Ⅲ そりすべり大会

小学生低学年・高学年・中学生・親子（親と幼児）の4部門に分かれ、100mコース・120mコースの合計タイムにより競った。ゴール付近からは滑走している子ども達に向けた大きな声援が沸き起こり、親子の部では、子ども達よりも親の方達が夢中になっている場面が多く見られた。

～参加者の声～

「親子で楽しむ時間をもつと、家族全員が笑顔になることが分かり、少しでもいいから普段の生活の中、親子でふれあう機会をつくりたいと思いました。」

「他の家族と一緒に宿泊し家族間の交流ができて、良い体験となりました。」

「子どもと一緒に過ごす良い時間、体験となり貴重だと感じました。」

「ゲームの有る時代に生まれた子ども達にとって自然の中で良い体験の機会となりました。」

「雪像作りで家族での協力、点灯式での演出とても感動的でした。」

～成果と課題～

○昨年の反省を踏まえて、雪上遊びリンピックでは、複数の種目に参加することを可能にしたことにより、参加者から高評価を得た。

○そりすべり大会へのエントリー人数は増えたが、試走の開始時間を早める等の効率的な運営により、100m・120mコース2本の合計タイムを競うことができ、昨年より充実した大会となった。

○「信州 体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会との連携により、体験活動の幅を広げることができ、参加者のニーズに合った活動が実施できた。

●スノーシュー体験・歩くスキー体験では、体験を希望する参加者と自然観察のみの希望者と一緒に活動としたため、各希望内容の活動時間が短くなってしまった。来年度はスノーシュー体験・歩くスキー体験・自然観察に分割したほうが参加者の希望に添えらると思える。

●そりすべり大会の120mコースにおいて、前の滑走者がゴールする前に次の滑走者をスタートさせたため、タイム計測で混乱する場面もあった。来年度は改善・工夫が必要である。